

## 職員による自己評価

## A環境面

- ・バリアフリー化されていない部分もあるが、必要に応じて支援している。
- ・生活空間の清潔は心がけており、今年度、建物内外とも修繕も行った。
- ・床・手すりの清掃・カビ対策等、日常清掃では難しい部分もあり、改善の余地がある。

## B児童への支援内容

個別支援計画に沿った支援が行われ、ケースミーティングや、日々の朝礼・終礼・情報伝達を促進するための情報共有アプリ等で支援内容の共有や意見交換を行っている。

## C関係機関との連携

- ・幼稚園・保育所等への訪問、関係機関との連携を行っている。
- ・保育所等訪問支援の実施数も増えたので、例年より他機関との連携が行えた。

## D保護者への説明責任・信頼関係

- ・面談を定期的に行うことで信頼関係が保たれているように感じる。

## E非常対応

概ねよい評価だった。

## 保護者による評価

## A環境面

概ねよい評価だったが、ご利用者の部屋の割り振りがどのように決められているのか気になるというご意見を頂いた。

## B児童への支援内容

個別での指導でのこと、療育方針についてご理解いただけていると推察される。

## D事業所からの情報発信

- ・父母の会の活動支援について事業所からの発信がないため、評価が大きく分かれた。ご意見も保護者同士の交流を求める意見と、必要性を感じないという意見とあった。
- ・ホームページ等による定期的な情報発信についても、意見が分かれた。

## E非常対応

事業所の方針にご理解いただけていると推察される。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・個別支援計画書に沿った支援が行われ、保護者側からも支援内容にご理解・ご協力が得られている。
- ・毎回のフィードバックや定期的な面談を通して、お子様の状況や課題についての共通理解ができ、必要な支援が行われている。
- ・非常時や緊急時の対応について、職員・保護者側の双方とも概ねよい評価だった。

## 【相違点】

- ・職員側より：環境面について、今年度は建物内外とも修繕も行ったが、日常清掃では難しい部分もあり、今後も改善の余地がある。
- ・保護者側より：保護者同士の交流を求める声と、その必要性を感じないという意見があった。
- ・職員側より：保護者同士の連携支援を行っていないが、待合スペースの改善により、交流が生まれているという意見があった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・個別支援計画書に基づき、一人一人に合った支援を行っている。  
定期的な面談時にご家庭の様子と合わせてお子さんの状況や課題について共通理解をし、より良い支援を常に心掛けている。
- ・本年度から保育所等訪問が本格的に始まり、レンテでの様子だけではなく園でのお子さんの様子を総合的に見ることで、多角的な支援につながられている。
- ・情報共有アプリを活用することにより、支援に関する職員間での共有や意見交換がより盛んに行われている。

### 事業所の改善点

- ・今年度は建物内外とも大規模修繕を行ったが、季節によってはカビが発生する箇所があったため定期的な点検や予防に努めていきたい。
- ・保護者同士の交流の場所として保護者スペースが活用できていると考えられる。一方で、交流だけではなく休息の場としてのニーズも考えられ、双方のバランスに配慮する必要がある。

### 事業所の改善への取り組み

本年度から始まった WEB セミナーによって、保護者の方々にレンテの取り組みを知っていただく機会が増えた。より一層周知し、今後は情報交換会など保護者同士の交流の場としても活用していきたい。

保育所等訪問の本格的な始動によって、個別での課題だけでなく集団の中での課題へのアプローチなど広く支援できるようになった。ご家庭・レンテ・保育所との連携を通して、より質の高い支援を提供していきたい。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ご多忙の中、たくさんのご意見をいただいたことに感謝したい。

今年度は感染症の拡大に伴い遠隔支援や時間変更など数々のご協力をお願いしたが、多くの方に快くご理解いただけた。また、今回のアンケートでも良い評価をいただけたことにより、日頃の信頼関係を築けていたことを感じた。

今回約7割の保護者の方々にご意見をいただけたが、より多くのご意見をいただけるようコミュニケーションを密にしていくとともに、今回の評価を日々の運営に活かしていきたい。

事業所名 発達療育 レンテ市川

担当者 宇野 恭兵